

# 公益財団法人 交通遺児育英会 令和5年度事業報告

第5次長期事業計画の柱の1つであった「心塾」東京寮の建替えが完了した。令和2年度にプロジェクトチームを設置して活動を開始し、令和4年度より建替え工事を行ってきたもので、予定どおり令和5年11月に竣工した。

当会の事業活動は、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」と略す）の分類が第5類（季節性インフルエンザ相当）に移行したことに伴い、ほぼ新型コロナ前の水準まで回復することができた。「高校奨学生と保護者のつどい」と「海外語学研修」についても、4年ぶりに再開することができた。

令和2年度から大学生以上の奨学生に実施している奨学金の一部給付を、本年度から高校奨学生にも拡大した。これにより、全奨学生に対する奨学金の一部給付が実現した。

通常業務の奨学生の採用については、例年どおり全国の学校、教育委員会等に向け積極的な募集・広報活動を行ったが、前年度に比べ新規採用者は微減に留まったものの、継続採用者は大幅に減少した。

奨学貸与金の回収については、新型コロナの期間中は自粛していた滞納者への戸別訪問や民事調停申立を再開し、積極的かつ効率的な回収活動を行った結果、前年度を上回る回収率となり、滞納額についても大きく減少させることができた。一方、新型コロナや物価高の影響に鑑み、返還者一人一人に寄り添った対応を徹底した結果、返還免除額は大きく増加した。

広報活動についても、本年度は新型コロナによる活動の制約がなくなったことから、全国各地の交通安全運動のイベントに積極的に参加するとともに、無料出張講演を数多く実施するなど、精力的な広報活動を行った。

広報活動への注力の度合いと強い相関を持つ寄付金収入であるが、本年度は、前年度に引き続き8億円を大きく上回る高い水準となった。

以下に事業別の詳細を記載する。第5次長期事業計画の重点課題については、本文中、項目番号の前に\*印を付してある。

## I. 奨学生の採用および奨学金の貸与等

近年の当会奨学事業を取り巻く環境は次のように大きく変化している。

- ①交通事故死傷者数の減少による交通遺児家庭の減少と少子化。
- ②高校については、平成22年度より高校無償化法（公立高等学校授業料不徴収および私立高等学校等就学支援金支給）が実施され、さらに平成26年度には法改正で低所得者への支援金支給が拡充されたこと。
- ③令和2年度より大学等における修学の支援に関する法律に基づき、高等教育の修学支援新制度が発足し、授業料等減免や給付型奨学金が創設されるなど、高等教育を取り巻く環境が変化し、さらには、年々、修学支援制度の対象者が拡大されていること。
- ④各都道府県や各大学等においては独自の奨学金制度があるが、これらの奨学金制度の多くが他奨学金との併受給を禁止していること。

(参考) <最近5年間の交通事故死者数・負傷者数の推移>

年	R1	R2	R3	R4	R5
交通事故死者数（人）	3,215	2,839	2,636	2,610	2,678
同 負傷者数（千人）	461	369	362	356	366

こうした影響は、令和元年度以降の奨学生採用数でみると下表のとおりである。

奨学生採用数は、令和元年度の1,052人から令和5年度の887人へと5年間で165人減少している。また、昨年度と比較すると、全ての学校区分で減少しているが、大学奨学生が大きく46人減少している。奨学金総額では、令和元年度の6億6,900万円（貸与のみ）から令和5年度の5億3,500万円（貸与・給付合計）へと1億3,400万円減少している。

<最近5年間の奨学生採用数・貸与金額の推移> (人、百万円)

年 度	高 校	大 学	大学院	専 修	各 種	合 計	奨学金総額
R1	305	605	20	118	4	1,052	669
R2	285	588	19	118	4	1,014	642
R3	255	567	24	121	4	971	612
R4	235	569	29	132	4	969	598
R5	217	523	25	120	2	887	535

(注)「高校」は「高専」を、「大学」は「短大」を含む。以下同じ。

1. 令和5年度奨学生の採用および奨学金の貸与・給付額

<令和5年度奨学生採用者数と奨学金および入学一時金等貸与（一部給付※）額>

		新規採用者(人)		継続採用者(人)		採用者合計(人)		貸与額 (千円)	給付額※ (千円)
		実績	前年 同期比	実績	前年 同期比	実績	前年 同期比		
奨 学 金	高 校	97	9	120	-27	217	-18	47,260	25,360
	大 学	137	-3	386	-43	523	-46	186,770	118,860
	学 院	11	-1	14	-3	25	-4	13,440	5,660
	専 修	39	-16	81	4	120	-12	44,070	26,010
	各 種	1	0	1	-2	2	-2	720	480
	合 計	285	-11	602	-71	887	-82	292,260 (353,340)	176,370 (165,280)
	(R4年度)	(296)		(673)		(969)		468,630 (518,620)	
入 学 一 時 金 等	高 校	28	-10	—		28	-10	13,000	0
	大 学	32	2	—		32	2	22,600	0
	専 修	10	-4	—		10	-4	7,400	0
	各 種	0	0	—		0	0	0	0
	合 計	70	-12	—		70	-12	43,000 (49,800)	
	(R4年度)	(82)				(82)			
	準備金 (R4年度)	—		30 (37)	-7	30 (37)	-7	23,600 (29,200)	
令和5年度奨学金および入学一時金等貸与（一部給付※）額合計 (R4年度)								535,230 (597,620)	

※) 一部給付はR2年度より開始

令和5年度の奨学生の新規採用として、令和4年度に予約決定した新1年生の本採用、および令和5年度に1年生以上に在学している者の在学採用を実施した。

新規採用数は、高校奨学生が前年度比9人増加したが、大学奨学生が3人減少、大学院奨学生が1人減少、専修学校奨学生が16人減少した。各種学校奨学生は昨年と同じであった。その結果、全体では前年度に比べ11人減少し、合計285人となった。

2年生以上の継続採用者は、高校奨学生が前年度比27人減少、大学奨学生が大きく43人減少、大学院奨学生が3人減少、各種学校奨学生が2人減少した。専修学校奨学生については4人増加した。その結果、全体では前年度に比べ1割ほどの71人が減少し、合計602人となった。

これらにより、令和5年度採用者合計は前年度より大きく82人減少し、887人となった。

令和5年度の奨学金の貸与・給付総額は4億6,900万円となり、前年度に比べて5,000万円減少した。また、入学一時金の貸与者は、前年度に比べ12人減の合計70人、貸与額は前年度より700万円減少し、4,300万円となった。高校奨学生3年生への進学準備金の貸与は、前年度に比べ7人減の30人、貸与額は前年度より600万円減少し、2,400万円となった。

この結果、令和5年度の奨学金および入学一時金・進学準備金の貸与・給付総額は5億3,500万円となり、前年度に比べ6,200万円の減少となった。

## 2. 奨学生の退学、辞退等の状況

令和5年度における退学、辞退者等は前年度（25人）より7人増加し、合計32人であった。これにより令和5年度末奨学生総数は855人となった。

＜令和5年度奨学生採用数の内訳および年度末奨学生数＞ (人)

学 校	新 規 採 用 者			継 続 採用者	採用者 合 計	退学・ 辞退者 等	年度末 奨学生数
	予約 採用	在学 採用	合計				
高 校	34	63	97	120	217	5	212
大 学	103	34	137	386	523	16	507
大学院	8	3	11	14	25	1	24
専修/専門	26	10	36	78	114	10	104
専修/高等	0	3	3	3	6	0	6
各 種	1	0	1	1	2	0	2
合 計	172	113	285	602	887	32	855

※都道府県別奨学生数の詳細は別表に記載（23ページ）

また、令和5年度末の奨学金の休止および一時停止者は下表のとおりであり、高校奨学生1人、大学奨学生16人、専修学校奨学生2人の合計19人である。前年度末より1人減少した。

＜休止、一時停止の状況＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合 計
R4年度末	3	17	0	0	20
R5年度末	1	16	0	2	19
増 減	-2	-1	0	2	-1

### 3. 令和6年度奨学生の予約採用および心塾入寮予約採用

令和6年度に進学する者のための予約採用を例年どおり実施した。予約決定者数の合計は下表のとおり158人で、令和5年度の182人（高校35人、大学118人、大学院8人、専修・各種21人）より24人少なかった。特に大学予約決定者が大きく50人減少した。

東京学生寮、関西学生寮の入寮予約採用も実施した。

＜令和6年度奨学生・入寮生の予約決定者数＞ (人)

	高 校	大 学	大学院	専修・各種	合計
予約決定者数	52	68	5	33	158
東京寮予約決定者数	—	16	0	2	18
関西寮予約決定者数	—	18	0	6	24

### 4. 奨学生の募集広報活動

募集案内を、全国の中学校および高等学校には、年度初めと2学期の終わり頃の年2回、大学・大学院および専修・各種学校には年度初めに送付した。都道府県や市町村の教育委員会、警察等の関係部署、全国の自動車教習所等にも募集協力依頼を年度初めに送付した。これら送付先の総数は約3万件である。

当会ホームページには、詳細な奨学生募集案内を各学校別、予約・在学別に掲載、願書については直接ダウンロードできるようにしており、同ページからの応募関係書類送付申込みや質問の受け付けを実施した。

## II. 奨学金の返還

奨学金返還においては、電話督促や戸別訪問などを効率的・効果的に行った結果、返還率は前年度を上回り、令和5年度事業計画を上回る返還額を確保することができた。滞納額（6か月超）は、前年度比13.1%減少した。

また、一方では、令和4年度に規定を改定し、3年連続して生活保護受給または住民税非課税の申請を行った返還者については、面談のうえ残債全額を免除とするなど、元奨学生やその保護者の生活状況を具体的に確認しながら、返還者一人一人に寄り添った対応を徹底したことで免除に繋がったケースが増え、免除額が前年度を大きく上回った。

## 1. 返還金回収事務の推進状況

### (1) 返還金の回収状況

令和5年度の返還対象者数は11,821人、奨学金と入学一時金（進学準備金を含む）を合わせた返還額は9億7,728万円、請求額（令和5年度中に返還期限が到来した要返還額10億6,709万円）に対する返還率は91.6%であった（前年度は90.7%）。

なお、令和5年度および最近5年間の回収状況は以下のとおり。

＜令和5年度回収ルート別の返還額＞ (百万円)

	口座振替	振込み		合 計
		銀行	コンビニ	
返還額	746 (76.4%)	57 (5.8%)	174 (17.8%)	977 (100.0%)

＜令和5年度返還金回収状況＞

	奨学金	一時金	合 計
返還者数	11,821人	6,163人	11,821人
回収額①(千円)	823,809	153,464	977,274
請求額②(千円)	896,579	170,517	1,067,097
返還率①/②	91.9%	90.0%	91.6%
返還完了者数	773人	359人	773人

＜最近5年間の返還金回収状況＞ (百万円)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
返還者数	13,243人	12,865人	12,486人	11,972人	11,821人
返 還 額	1,008	1,016	1,000	1,001	977
返 還 率	88.1%	87.4%	88.1%	90.7%	91.6%
返還完了者数	716人	735人	807人	799人	773人

### (2) 返還猶予

令和5年度中に返還猶予を承認決定した者は1,362人で、前年度より17人少なかった。

1,362人のうち病気療養を含む経済的理由による者が1,185人(87.0%)おり、経済的理由による返還猶予の申し出は引き続き高い水準で推移している。

＜最近5年間の返還猶予決定者数＞

(人)

		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
猶予決定者数		1,506	993	1,123	1,379	1,362
内 訳	在学中・ 浪人中	197 (11.9%)	105 (10.6%)	105 (9.3%)	103 (7.5%)	88 (6.5%)
	経済的 理 由	1,462 (88.1%)	888 (89.4%)	981 (87.4%)	1,220 (88.5%)	1,185 (87.0%)

(3) 返還滞納者の状況

前年度に比べ、「1年超滞納」「5年超の長期滞納」とともに、滞納者数と滞納額は減少した。「1年超滞納」は1,774人(前年度比84.5%)、7億9,018万円(同86.4%)、「5年超の長期滞納」は958人(同87.7%)、6億931万円(同88.5%)であった。

＜令和5年度末滞納期間別滞納状況＞

滞 納 期 間	R4 年度末		R5 年度末		差異		
	人数 (人)	金額 (千円)	人数 (人)	金額 (千円)	人数 (人)	金額 (千円)	(増加/減少率)
5年超	1,092	688,865	958	609,319	▲134	▲79,546	(▲11.5%)
4年超5年以下	206	67,533	180	63,571	▲26	▲3,962	(▲5.9%)
3年超4年以下	273	75,134	136	38,587	▲137	▲36,547	(▲48.6%)
2年超3年以下	219	43,902	167	32,298	▲52	▲11,604	(▲26.4%)
1年超2年以下	310	38,981	333	46,414	23	7,433	(19.1%)
小 計	2,100	914,415	1,774	790,189	▲326	▲124,226	(▲13.6%)
6か月超1年以下	275	18,796	325	20,447	50	1,651	(8.8%)
合 計	2,375	933,211	2,099	810,636	▲276	▲122,575	(▲13.1%)

＜最近5年間の滞納状況＞

	1年超滞納		5年超滞納 (左欄の内数)	
	人数(人)	金額(千円)	人数(人)	金額(千円)
R1 年度末	2,393	900,179	1,040 (43.5%)	623,584 (69.3%)
R2 年度末	2,548	974,547	1,141 (44.8%)	689,408 (70.7%)
R3 年度末	2,509	992,352	1,133 (45.2%)	697,238 (70.3%)
R4 年度末	2,100	914,415	1,092 (52.0%)	688,865 (75.3%)
R5 年度末	1,774	790,189	958 (54.0%)	609,319 (77.1%)

(注) ( ) 内は1年超滞納合計に占める割合

(4) 返還免除の状況

令和5年度中の返還免除は、件数で283件、金額で1億997万円となり、免除件数、金額ともに前年度を大きく上回った。

住民税非課税による生活困窮者の返還免除が大幅に増加しているが、その理由としては、3年連続して生活保護受給または住民税非課税の申請を行った返還者については、面談のうえ残債全額を免除とするなど、元奨学生やその保護者に寄り添った対応を徹底したことが大きな要因である。

＜令和5年度返還免除件数・金額と5年間の推移＞

(千円)

	R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度	
	件数	金額								
死亡	11	7,935	17	12,416	8	5,100	15	11,909	18	13,130
心身障がい	24	29,101	27	38,705	31	34,909	40	49,305	50	58,684
債務整理※	19	19,553	18	18,241	15	21,613	12	4,456	8	4,212
生活保護	33	1,872	36	2,108	38	2,129	54	9,714	43	4,241
住民税非課税			2	125	18	2,383	69	6,022	161	24,968
特別支援学校	0	0	1	2,040	0	0	1	1,840	2	4,080
その他	0	0	2	125	9	7,545	7	3,108	1	660
計	87	58,461	103	73,760	119	73,679	198	86,516	283	109,977

※自己破産、個人再生を含む。

(5) 滞納者への督促状等の送付

滞納期間3か月超の滞納者に対し、4月と10月に督促状を送付した。また10月から返還開始（新返還者）の滞納者（滞納1回以上）に対しては令和6年3月に初回等未納通知27通を発送した。

＜督促状等の発送件数＞

(通数)

滞納期間	滞納通知書 (滞納3か月超)	督促通知書 (滞納3年超)
4月発送	1,494	1,490
10月発送	1,310	1,355
計	2,804	2,845

なお、滞納期間が3年超の督促通知書は、滞納通知書（3か月超）より厳しい文言で今後の返還計画を回答するよう求めたもの。

## 2. 重点課題の推進状況

### \* (1) 長期滞納者対策の推進

#### ① 戸別訪問の実施

新型コロナの第5類への移行を受けて、長期滞納者宅への戸別訪問を再開した。訪問戸数は261戸、対象件数は340件、滞納解消件数は142件で、滞納解消率41.8%であった。

#### ② 3年超滞納者宛て督促通知の送付

前述（1. (5)）のとおり、令和5年3月末現在及び9月末現在で3年超の滞納となっている返還者へ督促通知を送付し、返還を促した。

#### ③ 調停申し立て

滞納者に対する民事調停申し立てについても、新型コロナの第5類への移行を受けて実施した。実施件数は40件、入金・返還約束件数24件、滞納解消率60.0%、滞納解消金額5,025万円であった。

### \* (2) 6か月超5年以下滞納者への電話督促

滞納者に対する電話督促についても、新型コロナの第5類への移行を受けて実施した。督促架電件数3,192件、滞納解消件数は395件で、滞納解消率12.4%であった。

## III. 奨学生に対する指導

### 1. 学業成績および生活状況に関する指導

#### (1) 学業成績に関する指導

年度末に奨学生在学の学校から提出された「学業成績表」と奨学生の「生活状況報告書」により奨学金交付の審査を行った。進級状況や修得単位数を元に、また傷病等やむを得ない事情を考慮し、奨学金の継続の可否を判定、成績不良者については奨学金停止の措置をとり、学業成績表の内容から見て最短修業年限での卒業が危ぶまれるおそれのある学生およびその保護者に対しては、注意喚起の文書を送付した。

## (2) 生活状況に関する指導

令和6年1月末までに奨学生から「令和5年度生活状況報告書(アンケート形式)」とテーマ自由の作文の提出を受け、奨学生の修学状況や意欲、生活状況、家庭環境を把握し、各種要望や質問などに対応した。

生活状況報告書は、記述内容を集計・分析のうえ、奨学生の指導に役立てる。

## (3) ヤングケアラーの実態把握

令和5年2月に実施した「生活状況報告書」において、ヤングケアラーについて質問を一項目入れたところ、回答者の4人に1人がヤングケアラーの可能性があると判明した。

令和6年3月に、本格的に実態を調査するため、全奨学生を対象に「奨学生の生活実態に関するアンケート(ヤングケアラーアンケート)」を実施した。

アンケートの速報では、回答者の15.8%がヤングケアラー(過去も含む)の可能性があると判明。

調査の詳細が出次第、個人情報に留意し、こども家庭庁・各自治体の動向も注視しつつ、当会としての具体的な支援策を早急に検討する。

## 2. 高校奨学生と保護者のつどい

8月19日(土)、20日(日)の2日間、全国の高校奨学生と保護者を対象とした「高校奨学生と保護者のつどい」を4年ぶりに東京高輪のホテルで開催した。全国各地から、高校奨学生45人、保護者55人、同伴家族20人、計120人が参加した。

内容は、①講演会、②保護者懇談会とグループワークゲーム(高校奨学生と同伴者の小・中学生)、③懇親会の三部構成とし、講演会では、高校奨学生OB(心塾東京寮生)と保護者が講演した。保護者懇談会では、10グループに分かれて奨学生の学習や進路、生活状況など当面する問題について情報交換、意見交換を行い、また、同席した心塾東京寮生は、保護者からの学生寮心塾等に関する質問に答えた。この間、高校奨学生たちは別会場でグループワークゲームに参加し、親睦を深めた。また、懇親会後の個別相談会では、5組の保護者が相談に訪れた。

2日目に行ったアンケート調査結果では、「つどいに参加してよかったか」の設問に、保護者および高校奨学生の95%が「とても良かった」「良かった」と回答した。

なお、今回のつどいで保護者から強い要望があった「浪人生への支援」および「英語

検定試験費用補助」については、理事会の決議により令和6年度から実施することとなった。

<年度毎のつどい参加状況>

年度	開催日	開催地	対象の高奨生	参加者数内訳(人)				高奨生参加率
				高奨生	保護者	同行者	合計	
H29	8/19～20	東京	292	67	76	10	153	22.9%
H30	8/18～19	東京	275	64	66	11	141	23.3%
R1	8/17～18	東京	248	78	80	30	188	31.5%
R2			中止					
R3			中止					
R4			中止					
R5	8/19～20	東京	175	45	55	20	120	25.7%

※高奨生：高校又は高等専門学校高等課程に在学する奨学生

3. 地域保護者懇談会「語らいカフェ」

令和5年度は、保護者同士の交流や情報交換の場としての懇談会「語らいカフェ」を、全国6か所で開催した。対象者は現役奨学生（高校、大学、大学院、専修学校）の保護者、会場は対象地域のホテルとし、計26名の保護者が参加した。地域別の開催状況は以下の通り。

<保護者懇談会「語らいカフェ」参加状況>

	開催日	開催地	対象地域	対象人数	参加人数	参加率
R4	11/17	名古屋市	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	100	16	16.0%
	12/15	福岡市	九州全県、山口県下関市	110	8	7.3%
	計			210	24	11.4%
R5	9/26	神戸市	兵庫県	46	3	6.5%
	10/5	仙台市	青森県、秋田県、岩手県、宮城県	33	3	9.1%
	10/11	福山市	岡山県、広島県	31	2	6.5%
	11/16	宇都宮市	福島県、栃木県、茨城県、山形県（一部）	27	2	7.4%
	11/30	大阪市	大阪府、和歌山県	58	10	17.2%
	12/5	京都市	滋賀県、奈良県、京都府	44	6	13.6%
	計			239	26	10.9%

開催後に実施したアンケートでは、「奨学金という支えの他に、心も支え応援してくださっている事を直接感じました」、「同じ境遇の方のお話はとても参考になりました。また明日から頑張ろうという元気ももらい参加して良かったです」、「少人数で全員の話が聞ける環境が良かったです」と好評だった。

#### 4. 海外語学研修

高校奨学生を対象とした海外語学研修を4年ぶりに実施し、7月22日～8月12日の3週間、米国カリフォルニア州テメキュラに20人を派遣した。

研修生は、原則英検3級以上の資格を持つ応募者の中から、作文審査、面接審査を経て決定した。

研修生は、現地の家庭にホームステイし、週日の半日は英語教室に通い、残り半日は博物館やシティーホール見学、スポーツなどの課外活動を行い、週末はホストファミリーと過ごす、という形で英会話や米国文化を学ぶとともに、現地の人々と交流した。

<海外語学研修 高奨生の派遣者数>

行先	H29年度	H30年度	R1年度	R2～R4年度	R5
アメリカ	24	30	24	中止	20
オーストラリア	0	1	0		
合計	24	31	24		20

#### IV. 給付による修学支援

##### \* 1. 家賃補助金

令和5年度における家賃補助金の給付人数および金額は、上期（8月）150人、下期（2月）151人で計2,709万円であった。過去5年間の給付の実績は下表のとおりである。

＜家賃補助の対象人数と給付額＞

		R1	R2	R3	R4	R5
上期	大学	129	132	127	121	121
	大学院	8	5	8	10	11
	専修・各種	24	13	8	18	18
	計	161	150	143	149	150
下期	大学	137	136	125	126	121
	大学院	9	5	7	11	11
	専修・各種	24	12	9	20	19
	計	170	153	141	157	151
総給付額（千円）		29,790	27,270	25,560	27,540	27,090

（注）給付額は月15,000円で、上期と下期に半年分を一括給付する。

##### \* 2. 上級学校進学受験費用補助金

高校奨学生等の3年生を対象に、大学等の上級学校を受験する際の受験料補助の案内状を9月に送付し、補助金を年度末の3月に送金した。令和5年度は48名が申請し、計172万円を給付した。

＜進学受験費用補助の対象人数と給付額＞ （金額：千円）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
進学受験費用補助金 （5万円限度）	給付人数	54	64	60	59	48
	給付額	2,062	2,517	2,350	2,350	1,721

##### \* 3. 各種資格取得費用補助金

###### (1) 普通自動車運転免許取得費用補助

令和5度の給付人数は113人、給付額は計1,643万円であった。

＜普通自動車運転免許取得費用補助の対象人数と給付額＞ （金額：千円）

		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
普通自動車運転免許 取得費用補助金 （50%・15万円限度）	給付人数	130	142	140	116	113
	給付額	18,539	20,135	20,128	16,762	16,436

## (2) 英語検定試験費用補助

令和6年度より、全奨学生を対象に、主要な英語検定の受験料を全額給付する英語検定試験費用補助を開始する。令和6年2月に全奨学生に案内を送付した。

## V. 学生寮「心塾」の運営等

### 1. 新東京寮竣工

建替えを行っていた新東京寮が竣工した。令和5年10月の竣工検査を経て、予定どおり同11月末に建物の引き渡しを受けた。

東京寮の建替えについては、平成25年の理事会にて現敷地内（日野市）で規模を縮小して建替えることを確認したが、その後、当会の事業計画が修学支援事業の拡大へと軸足を移したこともあり、具体的な進展はなかった。

その後の第4次長期事業計画（平成29年～令和2年）において、家賃補助（平成28年～）や奨学金の一部給付（令和2年～）など修学支援事業の実施が一服したことから、東京寮の建替えを第5次長期事業計画（令和3年～7年）の柱の1つとして盛り込み、プロジェクトチームを設置して具体的な検討を開始した（令和2年9月）。

その後、東レ建設㈱を事業者を選定し（令和3年8月）、設計（令和3年10月～4年8月）、旧東京寮の解体（令和4年4月～9月）を経て、令和4年10月より建築工事に着手し、令和5年11月に新東京寮が竣工した。

新東京寮は令和6年2月の竣工式を経て、令和6年3月には、高尾寮より21名の学生が新東京寮へ入寮し、新しい寮生活をスタートさせている。

なお、今回の新東京寮の建替えに合わせて「心塾」の商標登録を行った。今後は「心塾」を当会の独自ブランドとして、奨学生・寮生募集や広報対応において差別化を図っていく。

<参考>

①解体工事の様子 (令和4年6月)



(令和4年7月)



②建築工事の様子 (令和5年3月)



(令和5年5月)



③新東京寮 (正面外観)



(居住棟)



(食堂)



(居室)



## 2. 各寮の状況

### (1) 東京寮 (ドーミー高尾)

令和5年4月の在寮生は計35人(在寮生26人、新入生9人)でスタート。7月末に大学院生1人が卒業、12月末に自己都合で1人退寮、卒業生12人で、令和6年3月に新東京寮へ転居した学生(令和6年3月末在寮生)は21人である。

本年度1年間を通じ、寮生からの相談等については、心塾職員が面談のほか電話や

LINE で対応した。

(2) 所沢寮

令和5年4月の在寮生は女子1人で、新規の入寮はなく、令和6年3月末現在の在寮生は1人。定期的に面談したほか、電話やLINEで随時生活状況を確認した。

(3) 武蔵境寮

令和5年4月の在寮生は男子2人、女子2人の計4人。令和6年3月に男子1人が卒業し、令和6年3月末現在の在寮生は3人である。職員が月1～2回程度訪問し、生活状況を確認した。

(4) 関西寮

令和5年4月は在寮生40人、新入生20人、計60人でスタート。途中1人が成績不良、1人が自己都合でそれぞれ退寮、2人が途中入寮、17人が卒業し、令和6年3月末現在の在寮生は43人である。

心塾塾生数の推移（年度初めの数字）（人）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
東京	51	43	36	32	29	35
関西	45	53	48	42	54	60
所沢	2	2	2	2	2	1
武蔵境			4	3	4	4
計	98	98	90	79	89	100

3. 講座の実施

(1) 東京寮

①文章講座、スピーチ講座

東京寮建替え期間中であったため、文章講座は課題方式で、スピーチ講座はZoomによるオンライン方式にて、それぞれ予定どおり4回実施した。

②読書感想文講座

下記の本を課題図書とし、予定どおり年4回実施した。

第1回 今村夏子『こちらあみ子』（ちくま文庫）

第2回 小林多喜二『蟹工船』（新潮文庫）

第3回 三浦綾子『母』（角川文庫）

第4回 町田そのこ『52 ヘルツのクジラたち』(中公文庫)

③教養講座

新型コロナの影響で中止していたが、4年ぶりに実施し、劇団四季「ライオンキング」を観劇した。

(2) 関西寮

①読書感想文講座

下記の本を課題図書とし、予定どおり年4回実施した。

第1回 津村記久子『君は永遠にそいつらより若い』(ちくま文庫)

第2回 カミュ『異邦人』(新潮文庫)

第3回 村田沙耶香『コンビニ人間』(文春文庫)

第4回 宇佐見りん『推し、燃ゆ』(河出文庫)

②教養講座

東京寮同様4年ぶりに実施し、劇団四季「オペラ座の怪人」を観劇した。

4. 行事について

(1) 東京寮(所沢寮、武蔵境寮を含む)

公式行事として、4月に「入塾式」を実施した。学生主体行事としては、9月に「夏季キャンプ」、令和6年2月に「卒塾式」を実施し、多くの学生が参加した。

(2) 関西寮

公式行事として、4月に「入塾式」、令和6年2月に「卒塾式」を実施した。

5. 卒塾生との交流促進

心塾の行事・イベント等においては例年、卒塾生にも声掛けを行い、在塾生との交流を図っている。新型コロナの期間中は交流を中止していたが、本年度は東京寮、関西寮ともに、卒塾式の際に卒業生にも声をかけ、OBも参加して交流を図った。

## VI. 事業資金の強化・拡大

### 1. 寄付金収入について

令和5年度の寄付金収入は、修正計画額の8億5,000万円を上回る約8億6,800万円となった。これは、遺贈で昨年度を大きく上回る3億8,600万円の寄付があったことによるものである。

また本年度も、昨年度に引き続き、全国9地区（北海道、東北、関東、北信越、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）の広報重点エリアの自動車関係団体や個人の寄付者開拓に向けて多角的な募金活動を展開した。寄付実績が過去の一般的水準より高レベルで推移していることについては、この成果の反映もあるものとみている。

#### 1) 総額

(百万円)

年度	H30		R1		R2		R3		R4		R5	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
予算	300		300		340		500		500		750	
実績	452 (113)		742 (272)		806 (294)		1,029 (20)		863 (258)		868 (386)	
	199 (64)	253 (49)	414 (252)	328 (20)	402 (118)	404 (176)	711 (11)	318 (9)	512 (213)	351 (45)	481 (282)	387 (104)

(注) 括弧内は遺贈で内数

#### 2) 個人および法人・団体等に層別した寄付内訳

(千円)

年 度		H30	R1	R2	R3	R4	R5
個人	件数	7,772	8,963	10,714	11,601	11,907	12,053
	人数	1,862	2,014	2,909	2,708	2,577	2,522
	金額	277,659	589,871	597,591	833,288	674,244	708,272
法人/ 団体等	件数	1,248	1,271	1,282	1,392	1,421	1,399
	社数	600	591	538	628	616	595
	金額	174,772	152,732	209,136	196,091	188,740	159,931
計	件数	9,020	10,234	11,996	12,993	13,328	13,452
	人/社数	2,462	2,605	3,447	3,336	3,193	3,117
	金額	452,431	742,603	806,727	1,029,379	862,984	868,203

## 2. 寄付金収入の安定化と拡大対策

事業継続、発展の基盤である資金造成のため、個人・法人を問わず当会の事業に対する理解の広がり及び支援の拡大に努めており、令和5年度は、地方紙が発行されている地域を中心に積極的に訪問活動を実施した。

### \* (1) 各地の交通安全推進運動への積極参加等による当会知名度・認知度向上と支援拡大

- ①自動車・交通関連企業などが実施する安全運転企画や全国各地の自治体が開催する「飲酒運転撲滅・根絶」イベント等に積極的に参加・協力し、交通安全に対する強いメッセージを発信しつつ、当会の事業活動を紹介するとともに交通遺児への支援を呼びかけた。
- ②自動車関連、交通安全に携わる企業・団体との協働で製品・商品の販売金額の一部を寄付する仕組みの拡大を試みた。
- ③過年度に寄付をいただいたが現在は停止している法人・団体への復活の働きかけを行った。
- ④広報重点エリアの自動車学校、交通安全協会等、自動車や交通に関連する法人や団体への訪問を継続し、当会への知名度向上、支援の拡大を図るとともに、併せて地方新聞への訪問により記事広告等の掲載も推進した。
- ⑤CSR・社会貢献に積極的な企業・団体に、その活動への協賛等を通じて接触を拡大するとともに、当会のホームページへのリンクを貼ってもらうべく働きかけを継続した。

### \* (2) ツール、商標等の活用拡大と新ツール考案

- ①「あしながおじさんパンフレット」「あしながおじさんポスター」「あしながおじさん募金箱」「コラボレーション・ロゴ」等の活用と配布先拡大を図った。
- ②「募金型自動販売機」の戦略的な設置拡大に努めた。
- ③従来の募金箱型寄付から電子マネー、ポイントを寄付する仕組みやツールの開拓、開発をめざした。
- ④ツール制作にあたっては、当会が保有する商標をフルに活用し、既存のツールについても、商標を活用したデザインを積極的に取り入れて差別化を図った。

### \* (3) 遺贈受入れ

遺贈に関与している弁護士、司法書士や金融機関等に、不動産を含む遺贈受け入れなど当会のきめ細かな対応を、パンフレットやホームページ等に加え、新聞・雑誌等の外部媒体も積極的に活用した広告宣伝で周知し、当会を受遺者とする遺言書の作成を働きかけた。また、遺贈に関する紹介ツールを制作し、全国の金融機関に配布した。

## VII. 広報活動による知名度・認知度向上への取り組み

令和5年度は、これまでの知名度向上活動を継続・強化した広報を積極的に展開し、交通遺児家庭への周知の徹底と支援者層拡大につなげた。

新型コロナの第5類への移行を受け、全国各地で開催される交通安全運動のイベントに積極的に参加するとともに、無料出張講演についても前年度を大きく上回る回数を実施した。

令和6年4月に全面リニューアルオープンする心塾東京寮については、紹介映像、新リーフレットの作成やマスコミ向けのリリース発信など積極的な広告宣伝に努めた。

また、近年、ネット上に意図的に受信者をだますことを目的としてフェイク情報を流す者がいることを常態と認識し、ネット情報の監視の強化と、不当不正な情報に対する適正な対応を継続した。

### 1. 事務局からの発信による広報

#### (1) ホームページ

- ①当会の活動や、最新情報を速やかに広報するために適宜更新するとともに、より見やすく親しみやすい内容やレイアウトに改善するなど、絶え間なく工夫を重ねた。
- ②ホームページおよび当会「50年史」の配布継続を通じて、当会の正しい歴史と沿革を広く紹介した。
- ③ホームページへのアクセス数増加への取り組みを継続した。

#### (2) SNS (Social Networking Service)

- ①フェイスブック (Facebook)、X (旧ツイッター (Twitter))、インスタグラム (Instagram) 等のSNSを活用した情報発信を積極的に行った。こうしたSNSは若い世代を中心に広く支持されていることから、本年度は更に活用を拡大し、広い世代に対して知名度向上を図った。
- ②インターネット、各種SNS等に限らず、当会の名誉や活動に対する不当不正な情報に対処するため、常時あらゆる分野において監視体制を強化した。

#### (3) 広報紙「君とつばさ」

- ①当会の事業活動を広く紹介するため、広報紙「君とつばさ」をより読みやすく、より親しみやすくなるよう不断に刷新し紙面の充実を図った。
- ②広報紙の機能は、当会と奨学生、保護者、支援者をつなぐことにあり、その観点から配布先の棚卸および適正化を継続した。

③令和5年度は5月（359号）、8月（360号）、10月（361号）、1月（362号）、3月（363号）の5回発行し、学校関係、奨学生、支援者などに、毎回約3万2,000部を送付した。

## 2. 当会認知度拡大と一般支援者拡大策

前1項の「事務局からの発信による広報」は、まず交通遺児家庭の方々およびその身近にいるの方々を対象として想定した広報である。

本項は前1項のように当会との関係性の強いあるいは強くあるべきの方々への広報とは別に、もう一つの重要な当会とは関係を持たない一般の方々を対象とする広報である。すなわち当会を認知していない方々の認知度を上げる広報である。

そのような広報により、奨学金制度の存在を知らなかったばかりに進学の機会を逸する交通遺児をなくすことができるし、「あしながおじさん」の支援を拡大する可能性を広げることができる。

そうした観点から、本年度に実施した広報（重点活動5項目）は次の通りである。

### (1) TV、新聞、ラジオ等主要メディアの活用

①当会の奨学金制度についての認知度を向上させるため、読者ターゲットに合わせて、新聞（一般紙、業界紙）、雑誌（月刊誌、週刊誌）、テレビ、ラジオ、SNS等、適宜メディアを選別しつつ、当会の事業活動上の重要な決定事項や主な行事について、積極的にニュースリリースした。

このニュースリリースについては、記者に伝わりやすくより多くのメディアに採り上げてもらえるように工夫を図るとともに、配信先を従来の記者クラブ（文科省）も含め、複数の記者クラブとすることにより、リリースの多くが記事として掲載されるよう努めた。

②全国の各学校、教育委員会等への広報を継続的、積極的に推進した。本年度より、全国の教職員に広く購読されている「教育新聞」への掲載を開始した。

③ACジャパンへ再度、広告申請を行ったが、申請は通過しなかった。

### (2) 交通安全運動への協賛等による広報

①春、秋、年末の全国交通安全運動に協賛団体として参画するとともに、自動車や物流関連の業界紙掲載を通じて、地域・自治体・団体レベルの各種交通安全運動との連携を推進するとともに、北海道、宮城県、新潟県、石川県、愛知県、長野県、広

鳥島県、福岡県、鹿児島県の地元紙にも広告を掲載した。

- ② 7月13日「飲酒運転根絶の日 決起大会」(札幌)、8月25日「飲酒運転撲滅県民大会」(福岡)、12月1日「飲酒運転ZEROプロジェクト 街頭キャラバン」(新潟)、12月8日「大分県飲酒運転根絶フェア 街頭キャラバン」、12月11日「石川県飲酒運転根絶」、12月20日「飲酒運転根絶県民大会及び令和5年度交通安全フォーラム」(沖縄) 等各地の交通安全推進運動への積極的参加、協賛により交通安全推進に寄与しつつ、当会認知度向上を図った。

- (3) 遺贈・相続受け入れ等の積極的広告宣伝（「VI. 事業資金の強化・拡大」に記載）

- (4) 交通遺児家庭についての理解を深める活動の推進

①無料出張講演の実施

講演会の規模等により、通常講演会とミニ講演会に分け、講演会用に制作したDVDも活用しながら、小回りのきく出張講演を数多く実施することにより、交通安全意識の啓発を行うとともに交通遺児、当会の活動内容、歴史への理解促進に努めた。令和5年度は、計17回実施した。

②小冊子(第一集・第二集)の継続配布

交通遺児やその保護者のみなさんの苦労や頑張りを社会の人たちに知ってもらうために発行した小冊子を各方面に配布し、人々の交通遺児家庭についての理解を深める活動を促進した。

- (5) 警察庁等への協力・連携

警察庁交通局と連携し、警視庁および全国の警察署を通じた当会の事業紹介パンフレットの交通事故被害者への配布を継続実施し、当会の奨学金制度をより多くの人に利用してもらうべくその周知を推進した。

別表1 奨学生現況表〔高校・大学・大学院・専修・各種 学年別〕 (令和6年3月31日現在)

都道府県	区分・学年	高校・高専					大学・短大						院・修士			院・博士					専修					各種					合計				
		1	2	3	4	5	計	1	2	3	4	5	6	計	1	2	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3		4	計		
北海道			2	2			4	7	9	3	4		23			0				0	1	1	1		3						0	30			
東 北	青森		1	1		1	3		2		2		4			0				0		2		2							0	9			
	岩手	2					2		2				2			0				0		1		1				1			1	6			
	宮城	1	1	5			7	2	2	6	3		13			0				0		2		2							0	22			
	秋田			1			1						0			0				0				0							0	1			
	山形		2				2	1				2		3	1	1				0		2		2							0	8			
福島					1	1	1	3	4	1		9			0				0	1	1		2							0	12				
関 東	茨城	2	1	1			4	1	1	2	3		7			0				0			1		1						0	12			
	栃木	2	1				3	1	1	1	1		4			0				0	1			1							0	8			
	群馬	1	1	2			4	2	2	3	3	1	11		1	1				0	1			1							0	17			
	埼玉	1	1	1			3	2	4	5			11		1	1			1	1	2	2	1	1	6						0	22			
	千葉	1	1	2			4	4	3	6	8		21	1		1				0	1	2	2		5						0	31			
	東京	5	5	5	1		16	11	10	12	9		42			0				0	1	3		4							0	62			
	神奈川	2	2	3			7	6	7	5	3		21	1		1				0	2	1		1	4						0	33			
中 部	新潟	1	3	1			5	1	2	2	3		8			0				0		1	1		2						0	15			
	富山						0		1		1		2			0				0				0								0	2		
	石川	1		2			3	1	2	2	1		6			0				0				0								0	9		
	福井			1			1	2		1			4			0				0	1			1								0	6		
	山梨						0	1	2		1		4			0				0		1		1								0	5		
	長野	2					2	1	3	1	6		11			0				0			1		1							0	14		
	岐阜	3	3	3			9	5	2	4	3		14	2		2				0	1	1		2								0	27		
	静岡		1	1			2	7	6	2	3		18	1	1	2				0	3	1		4								0	26		
	愛知	4	5	2			11	10	8	14	9	1	42	2	1	3				0	2	1	3	6								0	62		
	三重		2	1			3	2		2	2		6			0				0	1	2	1	4								0	13		
近 畿	滋賀		1	1			2	2	3		4		9		2	2				0		1	2	3								0	16		
	京都	1	3	5			9	3	1	4	2		10		1	1				0		3		3								0	23		
	大阪	5	6	9			20	11	8	7	6		32	1		1				0	2	3	1	6								0	59		
	兵庫	7	9	5			21	7	9	9	9	1	2	37	1		1			0	1	2		3								0	62		
	奈良		1	3			4	4	4	3	1		12			0				0	1	1		2									0	18	
和歌山	2		3			5	1	5		3		9	1		1				0			1	1									0	16		
中 国	鳥取						0	1					1			0				0				0									0	1	
	島根			1			1		1		2		3			0				0	1			1									0	5	
	岡山	3		1			4	3	2	2	5		12			0				0		2	1	3									0	19	
	広島	2	3	1			6	2	3	3	2		10		1	1				0	1	2		3									0	20	
山口		1				1	1		2	1		4			0				0		2		2										0	7	
四 国	徳島	1	1	1			3	3	2	1	3		9			0				0		1	1	2									0	14	
	香川						0	1		3	1		5			0				0	1			1									0	6	
	愛媛		1	2			3	1	1	1	2		5			0				0	1			1									0	9	
高知	1		1			2			2			2			0				0				0										0	4	
九 州	福岡	4	3	5			12	6	8	7	5		26	1	2	3				0	4	3	2	1	10								0	51	
	佐賀	1	2	2			5						0			0				0		1		1									0	6	
	長崎			1			1		2	3	1	1	7			0			1					0										0	9
	熊本		1	2	1		4	1	2		3		6			0				0	2	1	1	4	1								1	15	
	大分	1	2				3		1	3			4			0				0				0										0	7
	宮崎			3			3	2	1	1	2		6			0				0		1		1										0	10
	鹿児島		2	2		1	5	1	3	1	1		6			0				0	2	1		3										0	14
沖縄			1			1	4			2		6			0				0	1		1	3	5									0	12	
合計		56	68	83	2	3	212	122	128	127	123	2	5	507	11	11	22	0	0	2	0	2	35	48	20	7	110	1	1	0	0	2	855		
備考(内数)		高校・定時制: 3人 高校・通信制: 30人 高専・専攻科: 5人					短大: 16人						院・博士					高等課程: 6人																	

○奨学貸与金増減残高状況

令和5年度の奨学貸与金の増減残高状況は、次の通りである。

(貸倒引当金 341,200,000円控除前の金額)

(単位:円)

		高等学校奨学金	大学奨学金	大学院奨学金	専修学校奨学金
奨学貸与金期首残高		3,671,119,103	4,848,307,038	315,698,565	1,211,618,369
貸与	当期貸与高	47,260,000	186,770,000	13,440,000	44,070,000
	前期繰越貸与高	27,199,808,500	19,411,097,059	967,960,000	3,610,030,000
	次期繰越貸与高	27,247,068,500	19,597,867,059	981,400,000	3,654,100,000
返還	当期返還高	268,494,736	431,012,095	27,142,153	92,521,518
	前期繰越返還高	23,078,163,486	14,326,622,312	634,035,435	2,341,035,656
	次期繰越返還高	23,346,658,222	14,757,634,407	661,177,588	2,433,557,174
免除	当期免除高	48,347,129	32,164,996	724,000	5,960,500
	前期繰越免除高	450,525,911	236,167,709	18,226,000	57,375,975
	次期繰越免除高	498,873,040	268,332,705	18,950,000	63,336,475
奨学貸与金残高		3,401,537,238	4,571,899,947	301,272,412	1,157,206,351

		各種学校奨学金	奨学金合計	高等学校入学一時金 進学準備金	大学入学一時金
奨学貸与金期首残高		46,695,438	10,093,438,513	1,497,095,993	664,937,090
貸与	当期貸与高	720,000	292,260,000	36,600,000	22,600,000
	前期繰越貸与高	169,150,000	51,358,045,559	3,177,250,000	1,875,150,000
	次期繰越貸与高	169,870,000	51,650,305,559	3,213,850,000	1,897,750,000
返還	当期返還高	4,618,900	823,789,402	83,111,334	52,563,495
	前期繰越返還高	121,233,922	17,422,927,325	1,605,611,649	1,176,884,809
	次期繰越返還高	125,852,822	18,246,716,727	1,688,722,983	1,229,448,304
免除	当期免除高	738,000	87,934,625	17,422,468	3,735,404
	前期繰越免除高	1,220,640	763,516,235	74,542,358	33,328,101
	次期繰越免除高	1,958,640	851,450,860	91,964,826	37,063,505
奨学貸与金残高		42,058,538	9,473,974,486	1,433,162,191	631,238,191

		専修学校入学一時金	各種学校入学一時金	入学一時金等合計	合計
奨学貸与金期首残高		251,978,921	7,066,380	2,421,078,384	12,514,516,897
貸与	当期貸与高	7,400,000	0	66,600,000	358,860,000
	前期繰越貸与高	476,400,000	13,400,000	5,542,200,000	56,900,245,559
	次期繰越貸与高	483,800,000	13,400,000	5,608,800,000	57,259,105,559
返還	当期返還高	17,256,504	552,890	153,484,223	977,273,625
	前期繰越返還高	210,951,079	5,946,820	2,999,394,357	20,422,321,682
	次期繰越返還高	228,207,583	6,499,710	3,152,878,580	21,399,595,307
免除	当期免除高	455,000	430,100	22,042,972	109,977,597
	前期繰越免除高	13,470,000	386,800	121,727,259	885,243,494
	次期繰越免除高	13,925,000	816,900	143,770,231	995,221,091
奨学貸与金残高		241,667,417	6,083,390	2,312,151,189	11,786,125,675